

令和元年 11 月 14 日
高齢施策担当部高齢者支援課

令和元年度上半期 地域ケア個別会議・地域ケア予防会議の実施結果概要

1 地域ケア個別会議

目的

個別ケースの検討を通じて、高齢者の課題解決を支援するとともに、課題解決に向けた社会資源の把握や地域包括支援ネットワークの構築を図る。

実施回数（平成 31 年 4 月から令和元年 9 月実績分）

172 回 25 か所の地域包括支援センターで実施した数の合計

主な参加者

本人、家族、民生委員、医師、病院相談員、担当の介護支援専門員、社会福祉協議会、介護サービス事業者、障害サービス事業者、保健相談所、生活保護ケースワーカー、地域包括支援センター等

主な検討事項

- ・認知症があり金銭管理に課題がある方の支援について
- ・引きこもりがちな一人暮らしの認知症の方が地域で生活するための、本人理解と支援者の連携について
- ・精神疾患のある子と高齢の親世帯に対する支援について
- ・障害者総合支援サービスと介護保険サービスの連携が必要な支援について
- ・認知症の周辺症状から社会生活に支障の出ている方を地域でどう支えていくか
- ・身よりのない独居老人の住み替え、自宅の片づけ支援について

2 地域ケア予防会議

目的

多職種協働により個別ケースを検討し、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの実施を支援する。また、平成 30 年 10 月から、訪問介護の国が定める基準回数を超える生活援助サービスをケアプランに位置付けた場合、ケアマネジャーからケアプランの提出を受け、多職種で検証することとなった。これを受け、地域ケア予防会議において、提出されたケアプランの検証も行う。

実施回数

35 回（介護予防プラン 25 回、訪問介護（生活援助）を位置付けたプラン 10 回）

主な参加者

理学療法士、作業療法士、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、主任介護支援専門員、担当の介護支援専門員、介護サービス事業者、地域包括支援センター等

主な検討事例

- ・変形性腰椎症の症状悪化による身体状況の悪化に伴う、今後の必要な支援の検討事例
- ・両股関節の術後で痛み等があるがリハビリに意欲的に取り組む独居高齢者の事例
- ・足の痛みが強く排せつ等が困難となったことに伴い訪問介護の生活援助が増えた事例